
夢ならいいのに

無一物無一文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢ならいいのに

【Nコード】

N2022Y

【作者名】

無一物無一文

【あらすじ】

与党による賛成多数により、筋肉増強化法案が可決しました。

目を覚ましたからといってやることもなく、僕が何気なくつけたテレビが告げた。

『与党による賛成多数により、筋肉増強化法案が可決しました』
なんだそりゃ。

非実在青少年保護法案に続いて、また訳のわからない法案が可決したのか。

この国はどうなってるんだ、なんて布団に潜りつつ眠り眼の頭で考えてみるものの、僕がどうこう出来る訳もなく、眠気覚ましに散歩でもしようと布団から抜けだし家を出た。

後悔した。

まず、隣の家のおっさんが上半身裸でポーキングしていた。

もちろんムキムキだ。

とってもイイ笑顔で「兄ちゃん、あんた、この国に住んでるなら法律は守らなきゃ駄目だよ」と注意された。

昨日まではただのおっさんだったのに。

公園に行ったら爺さんから子供までが寄り集まって「第一マッチョ体操ー」とか言いながらポーキングしていた。

もちろんムキムキだ。

とってもイイ笑顔で「若いもんが身体も鍛えんと情けない」「お兄ちゃんダッセェ。今話題のマッチョニートじゃん」と爺さんと子供たちに罵られた。

筋肉ダルマの集まりがイイ笑顔でいっせいにこちらを見ていたのは圧巻だったが、マッチョニートってなんだよ。

訳がわからないと混乱していたら僕の目の前を猫がポーキングしながら横切った。

もちろんムキムキだ。

とってもイイ笑顔で「にゃー、にゃにゃ、おあー……」と呆れるように鳴いて去っていった。

ムキムキの猫はキモかった。

どうなっているんだこの国は？

なんだか怖くなった僕は、付き合って三ヶ月になる愛しい愛しい恋人の家へ一目散に駆けてった。

インターホンを押して開いた玄関から現れた彼女は、素晴らしいポーシングで僕を出迎えた。

もちろんムキムキだ。

とってもイイ笑顔で「私、貧弱な人とは付き合えないの」と別れの言葉をつきつけられた。

三ヶ月育んだ愛の結晶も、彼女の筋肉ボディを見た瞬間冷めに醒めた。

何処に行っても何処を見ても、あらゆる存在がマッチョマチョシていた。

これからどうしたらいいのか途方にくれたそのとき、僕の肩をなにかが掴んだ。

「きみ、どうしてマッチョじゃないんだ？」

振り返ったその先には、ブーメランパンツ一丁にサスペンダーをつけた筋骨隆々の男が、とってもイイ笑顔でポーシングしながら警察手帳を提示していた。

「身体を鍛えないとは不審な奴だ。ちよつと署まで」

全力で逃げ出した。

もうなにもかもが嫌で家に逃げ込んで鍵を閉め、布団を頭から被って震えるしかなかった。

ドンドンドンドン。

「開けなさい！！」

聞こえない聞こえない聞こえない。

「筋トレ未遂罪は5年以上の実刑だぞ！！」

意味わからない意味わからない。

「このまま籠城していたら、筋トレ監禁罪で更に罪が重くなるぞ！」

さっきから筋トレ何々罪とかなに言っただこの警官。

「仕方ない、応援を呼ぼう」

一旦遠ざかっていく足音。だがその数十分後、けたたましいサイレンの音を鳴らして何台もの車が停まる音が聞こえてきた。

「アーアーテステス、家に立て籠もっている筋トレ立て籠もり犯に告げる」

拡声器を使っの大きな声が家の中まで届いてくる。

「いつまで筋トレもせず立て籠もり続ける気だ。きみのお母さんも泣いてるぞ」

え？ どうゆうこと？

僕はそつと窓から外を覗いてみた。

「たかし、あんたなんで筋トレしないの！！ こんな、こんなに世間様に迷惑かけるようなことまでしでかして！！」

外では、たくさんのポーキングするブーメランパンツデカに囲まれて、一生懸命ポーキングをしながら訴える母の姿があった。

もちろんムキムキだ。

とってもイイ笑顔で「早く投降して家から出てきなさい！！」と説得する姿がそこにはあった。

もうなにも信じられなかった。

グルグルと視界が回り始め、僕の世界は暗転した。

「はっ」

気がつくところは僕の家で、布団から飛び起きた所だった。

窓から外を覗いてみるも警官や母はいない。

「なんだ、夢か」

ほっと一息ついて、気分転換にテレビをつけた。

『与党による賛成多数により、筋肉増強化法案が――』

夢はまだ、覚めることはないらしい……

(後書き)

ある日突然、街中がマッチョになったら……
考えたくない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2022y/>

夢ならいいのに

2011年11月11日15時51分発行